

平成26年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実施状況報告書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

.....
経済学部 1

.....
人間文化学部 人間文化学科 3

.....
人間文化学部 心理学科 4

.....
人間文化学部 メディア情報文化学科 5

.....
工学部 スマートシステム学科 6

.....
工学部 建築学科 7

.....
工学部 情報工学科 8

.....
工学部 機械システム工学科 9

.....
生命工学部 生物工学科 17

.....
生命工学部 生命栄養科学科 20

.....
生命工学部 海洋生物科学科 21

.....
薬学部 23
.....

経済学部

■ 担当者氏名

(代表) 早川 達二

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生を学生番号順に12クラスに分割した。1クラスあたり平均13~14人となり少人数授業が実現した。(平成25年度は平均25~26人であった。)

担当教員は以下のとおりである。

- ・経済学科 : 金丸純二、筒本和広、増澤拓也、吉田卓史、李森
- ・国際経済学科: 足立浩一、井上矩之、中村博、鍋島正次郎
- ・税務会計学科: 泉潤慈、伊藤祐一、日野恵美子

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教員によって若干異なるものの、大学生活へのオリエンテーション、本の読み方、講義の取り組み方、学科・コースの説明(2年次選択のための参考として)などはほぼ共通して扱われた。

具体例としては、以下のような内容があった。

- ・自己表現させることを大きな狙いとし、人前で話す練習をする。
- ・基礎的な数学力をつけるため、数学問題集を解く。
- ・SPIの問題集を解く。
- ・図書館の使い方、文献の検索方法、授業の受け方、ノートの取り方、レポートの書き方を習得する。
- ・インターネットを活用した情報収集を行う。
- ・プレゼンテーション資料の作成を行う。
- ・本を紹介し、少しずつ読み進める。
- ・ビジネス能力検定3級、2級のための準備学習をする。
- ・ホームルーム化し、学生との交流、学生同士の交流を重視した。

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。また、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくるための自己表現力やコミュニケーション力を養っている。

平成26年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な取り組みは、以下のとおりである。

- ・自己表現力をつけることを大きな目標として、挑戦させようとした。
- ・経営学で有名なドラッカーの本「経済人の終わり」をとりあげた。
- ・ディスカッションと個人ワークを中心に進めた。
- ・経済学の勉強のための基礎的な計算、データの収集、分析方法を身につけることを目指した。
- ・経済学の基礎知識の習得を狙った。
- ・社会への関心を持つようになることを目指した。
- ・自己管理ができるようになることを目標とした。
- ・学生同士、また教職員とのコミュニケーション能力の向上を図った。
- ・文章でも口頭でも自分の意見が言えるようになることを目指した。

■ 教養ゼミの成果

平成 26 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・少しずつではあるが、人前でうまく話せるようになってきたようである。
- ・数学の問題練習では、時間が十分に取れず、問題を一応解いてはいるが、本当に力がついたかどうかは正確に確認できない。
- ・全体的に見て参加学生の数学能力が向上し、初期の目標に達した。
- ・ビジネス能力検定問題を通じて、経済学の入門知識を身につけ、経済学について理解を深めた。
- ・各自がそれぞれの役目を行い、また違う立場を経験することにより、ディスカッションを活発に行うコツを少しずつ理解してくれた。

■ 課題

平成 26 年度経済学部で実施した教養ゼミの代表的な課題は、以下のとおりである。

- ・人前で話す、人の役に立つ、物怖じせず挑戦していく等を目指していたが、1年間では全ての目標に完全に到達することは難しかった。
- ・個人ワークにおいては、取組みの意識に大きな差があった。
- ・ブレインストーミングのスキルに個人差があり、ディスカッションの主導権を一部の学生が握る傾向にあった。
- ・平成 26 年度から、教養ゼミ担当者と 1 年生の担任とが同一教員となり、また、教養ゼミも隔週(90 分)ではなく毎週(45 分)行うという形態に変更されて、運営が大きく改善された。この方式は平成 27 年度にも継続されている。
- ・入試が学科別になる影響で、平成 28 年度からの教養ゼミのクラス編成について経済学部内で議論が行われている。クラス編成が学科別になる可能性もあるが、今のところ未定である。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 重迫 隆司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

2グループ ①グループ 13名, ②グループ 14名

■ 学習の到達目標および授業のねらい

到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

*コミュニケーション能力の基礎となる力: 聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

授業のねらい

- (1) 1年生全員が教員全員と顔を合わせる。
- (2) 学生全員がお互いに交流を深める。
- (3) 大学生としてのやる気を高める。
- (4) 到達目標を明確化することで自分に自信を持つ。

■ 実施内容

第1回 4/13(月)&14(火): ①②グループ別ガイダンス

第2回 4/20(月)&21(火): ①②グループ別「図書館」ガイダンス

以下、ガイダンス、プレゼンテーションを除き、2人の教員ペアによる大学での学修、研究への導入のための実践的演習中心のゼミ(ホスト教員/ゲスト教員)を行う。

第3回 4/27(月): 重迫/原

第4回 5/11(月): 原/柳川

第5回 5/18(月): 柳川/山東

第6回 5/25(月)&26(火): ①②グループ別「保健管理センター」ガイダンス

第7回 6/1(月): 山東/重迫

第8回 6/9(火): 青木/脇

第9回 6/16(火): 脇/清水

第10回 6/23(火): 清水/山川

第11回 6/30(火): 山川/青木

第12回 7/6(月)&7(火): 各自、学生によるプレゼンテーションの準備

第13回 7/13(月): ①クラス学生によるプレゼンテーション(全学生、全教員)

第14回 7/21(火): ②クラス学生によるプレゼンテーション(全学生、全教員)

第15回 7/27(月): 投票結果発表・表彰とアンケート(全学生、重迫ほか)

*第13回と第14回でそれぞれ「ベストプレゼン賞(仮)」を学生および教員の投票で決定。

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、最後のプレゼンテーションおよびアンケートの結果より、全員が到達目標に達したことを、学生、教員とも確認した。

■ 問題点, 改善点, 対応策

2グループで、月曜日と火曜日に別れて行った上、合同の日もあり、日程の混乱が若干あった。開講曜日、グループ分けの改善策を検討中。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

(代表) 野寺 綾 (H26年度1年副担任・取りまとめ係)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数6, ゼミの学生数各7 or 8名

■ 前期実施内容

テーマ:ピア・サポート訓練

主な内容:ピア・サポートとは/自己紹介ゲーム, 自分自身について知ろう, 一方通行と双方向のコミュニケーション, 傾聴について/聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう/大切なものランキング, ストレスへの対処, まとめ (その他に, 29号館案内, 保健管理センター・大学会館案内, 図書館案内を実施)

■ 前期教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に, 松田学長による特別講義(「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明)が実施された。その後の授業では, 心理学科教員が教養ゼミ用に作成した冊子「ピア・サポートをはじめよう」をもとに, 学生同士がサポートしあうためのスキル(傾聴の仕方, 感情の表出方法など)の訓練を行った。授業を通じて, 初対面の学生同士が関係を築き, 互いに思いやりをもって支え合う雰囲気を学生の間に高めていくことができた。

【上級生からのピア・サポート】

2年生:全2年生を2・3名ずつのグループにわけ, ファシリテーターとして6つのうちいずれかの教養ゼミに参加するよう促した。教養ゼミのうち2回程度は, このファシリテーターの上級を中心に実施された(上級生には予め「ピア・サポートをはじめよう」の教員版の一部を配布し, それに基づいてピア・サポート訓練を1年生に対して行うよう伝えた)。また, 5月には2年生主催で1, 2年生合同の交流会(ドッチボール大会)を開催した。

3年生, 4年生:ピア・サポート・トレーナー養成講座(現・学生サポーター養成講座)のメンバーが2, 3名ほどでグループを形成し, 各教養ゼミに配属された。サポーターは, 全15回の授業を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。なお上級生には予め「ピア・サポートをはじめよう」の教員版を配布し, それに基づいて教養ゼミを運営するよう伝えた。担当教員は毎回の講義に同席し, 終了後, 上級生のピア・サポート訓練の仕方の良かった点や改善点をアドバイスした。

このような上級生との関わりによって, 1年生のピア・サポート訓練の効果が著しく向上し, 学年を越えた交流が促進された。

■ 後期実施内容

教養ゼミでピア・サポート訓練を実施したのは前期のみであったが, 学年担任だけでなく各ゼミ担当教員が後期も引き続き, 自分が担当した学生との連絡や面談, 履修上の指導に関わった。さらに1年生を中心とする学生は, デートDV防止に関する学内講座にも参加し, 恋愛関係にある人物と良好な関係を築くにはどのような点に配慮するべきなのかを学んだ。

■ 今後の課題

次年度以降, 汎用的スキルの継続的な獲得をめざし, 1年次の教養ゼミをさらに充実させるほか, 2年次にも引き続き小グループでのゼミを行うカリキュラムを検討する予定である。

具体的には, 前期のピア・サポート訓練の内容を洗練させ, 各クラスの訓練の質に偏りがでないようにするほか, 後期の活動の充実をはかる予定である。

■ 特記事項

今年度も, 心理学科教員が作成した冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは, ピア・サポート・トレーナー養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

前期の段階で, 図書館案内のほか, 保健管理センターおよび大学会館を案内する機会を設けた。具体的には, 大学会館内食堂・フーズカフェやCLAFITの案内を行い, 1年生に施設を紹介することができた。

人間文化学部 メディア情報文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 渡辺 浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:3(一年次担任:三宅(4)、渡辺(3)、阿部(3))

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 少人数ゼミ
- 基礎学力向上講座
- カウンセラー藤居先生によるゼミ
- 学内ツアー:教員が撮影した学内の建物・オブジェクトを探し、同一アングルの写真を撮影する
- 19号館リニューアル作業:これから4年間を過ごす19号館をより使いやすくするための活動
- CMコンテスト運営の準備

■ 前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらに学内ツアーや19号館リニューアルは「仲間作り」や協調性育成という点において非常に有効であったと思われる。

カウンセラーの藤居先生は学生に対して学科教員とは異なるアプローチで接していただけたので、学生の普段見えない側面も垣間見ることができ、今後の指導において非常に参考になった。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応等

後期は学科活動(講義科目外で実施している)や学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施した。

工学部 スマートシステム学科

■ 担当者氏名

(代表) 伍賀 正典

三宅 雅保、三谷 康夫、田中 聡、香川 直己、関田 隆一、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

1 回目(4/9)概要説明、自己紹介

2 回目(4/16)授業の受け方、ノートの取り方

3 回目(4/23)図書館訪問

4 回目(5/7) 保健管理センター訪問

5～8 回目(5/14、5/21、5/28、6/4)小グループゼミ

9～15 回目(6/11、6/18、6/25、7/2、7/9、7/6、7/16、7/23)ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から7つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎の学力底上げを行った。
- 8～15回目まで、ミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では3号館1階のプロジェクトルームを用い、ロボット競技は3号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあった。
- このミニロボットコンテストの作成物は、三蔵祭にも出展し好評であった。三蔵祭のイベントは1年生二名が世話役として活動し、学外からの約100人の来場者があった。

■ 問題点, 改善策, 後期での対応策

今年度は昨年度の知見を活かし、教養ゼミ予算を利用してミニロボットコンテストを開催したが、これによって1年生同士の親交が深まり良い効果が得られたものと思われる。今年度は学科名変更があった初年次生に対する教養ゼミであったが、これまでと大きく変わることはなかったので、次年度以降学科の特色を出す内容も考えていきたい。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表) 伊澤 康一

■ 実施内容

“身のまわりの空間や環境を快適に心地よくする”ということから建築学科の学習が始まり、その延長上に将来の仕事が繋がっていく。そのため、「大枠テーマ」を“大学キャンパス”と設定し、7つのゼミに分かれて各「専門テーマ」に関連した問題の解決に挑戦した(全 67 名、各ゼミ 9~10 名)。各ゼミのテーマは次のようなものであった。

1. 藤原ゼミ「福山大学キャンパスマップと外灯デザインの提案」
2. 大島ゼミ「安全な階段をつくるための調査隊」による「キャンパス内階段調査」
3. 伊澤ゼミ「工学部新棟の環境評価」
4. 宮地ゼミ「Danger Area」
5. 山田ゼミ「福山大学 14 号館の構造調査」
6. 都祭ゼミ「福山大学施設の耐震性」
7. 酒井ゼミ「松永駅北口の現状について」

最終回に成果発表会を行なった。学生は、テーマに対する興味と理解を深め、チームによる共同作業、チーム内での役割、発表のまとめ方、発表の仕方などを身につけ、一定の成果を得た。

■ 評価方法

下記により評価(100 点満点)した。60 点分は各ゼミ指導教員による評価とし、40 点分は教員全員による評価とした。成果発表会の教員評価(100 点満点)を平均し、比率 40%を乗じた点数が各ゼミの成果発表会評価点とした。

①課題の難易度	}	60/100
②成果物の完成度		
③課題への取り組み姿勢		
④成果発表会におけるプレゼンテーション		40/100

■ 今後の課題

学科内で“振り返り”を行なった結果、以下の課題等が明らかになった。

- PBL 教育についての“ガイダンス”や“配布資料”が必要。
- 「教養ゼミ」の“目標レベル”が不明確;「今回のレベルで良い」と「より高いレベルにすべき」とで意見が分かれた。
- 学生が主体的に考えることと、学ぶべきこと(指導・教育)の双方が必要。
- “自主的に取り組む学生”と“非協力学生(欠席者)”とに分かれる傾向があり、それをどのように解消するか。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表) 新谷 敏朗

■ 目的

1年次生に対し少人数クラスを編成し、初年次教育の一環としてコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。また、教養講座を受講し、教養を高める。

■ 実施内容

企業の方による特別講義を教養ゼミとして実施したので、実施回数は16になった。それ以外のうち、7回は、テキスト「大学 学びのことはじめ:初年度ワークブック」に基づき、1) 自己紹介、2) 履修方法の確認、3) 大学施設(図書館、学生相談室)の見学、4) 課外活動や大学祭などの大学生生活、5) 受講の心得、6) 資格取得について学び、7) クリーンアップ作戦として工学部新棟付近の清掃活動も実施した。残りのうち3回はグループワークを行い、5回は教養講座を割り当てた。グループワークは学生を4ないし5人程度のグループに分け、テーマを考えて調査・資料作成・プレゼンテーション用ファイル作成を行い、最後にグループごとに発表を行った。各グループの発表の評価は学生達も行った。

グループワークに関しては3週間にわたる予定を設定し、

- 第1週 グループ分け、テーマの選択、役割分担、作業開始
- 第2週 調査、資料作成、プレゼンテーション用ファイル作成
- 第3週 みんなの前で発表、評価

を行った。

グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
- ・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
- ・コミュニケーション、ディスカッション、文書作成、構成作業、プレゼンテーション資料作成、発表などの基礎的能力の向上

を到達目的とした。

■ 成果等

教養ゼミの趣旨である導入教育を通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話をする機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、プレゼンテーション資料の作成方法や、実際の資料作成などを一通り経験し、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村 純壮

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

1. ガイダンス, 顔合せ・挨拶, 履修・授業について, 自己紹介準備
2. 自己紹介, スピーチについて
3. 高校と大学の相違点, 大学生活の注意点 課題演習作業と発表
4. 授業の受け方, ノートの取り方, 学習方法 課題演習作業と発表
5. 就職関係スケジュール
6. 進路選択, 企業選択, 就職実績, 機械技術者の資格調査・紹介
7. 就職活動と基礎力, 入社試験・採用試験説明,
SPI適性検査(理科・物理関係)演習
8. 時事問題について 課題演習作業と発表
9. 将来計画策定とプレゼンテーション・質問, 感想発表
10. 特別講義 企業講師によるモノづくりの方法
11. 教養講座(1)
12. 教養講座(2)
13. 教養講座(3)
14. 教養講座(4)
15. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として, 大学生活への適応や注意点, 基礎力の育成と大学生活の目標, 将来計画等をテーマとして取り扱った。ほぼ毎回の授業において, 説明・問題提起, 考察, 整理, プレゼンテーション, 質疑のプロセスを経るようにして, 学生が自分で考えること, プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した。学生も積極的に, 関心を持って取り組んだ。授業を重ねるごとに, プレゼンテーションにも慣れ, 学生相互のコミュニケーションも促進され, 交友関係を築くことができた。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

ICT 関係のテーマ, 図書館オリエンテーション等の取り入れを検討したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

霧崎 展

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 第1回 ゼミ内容の説明、取り組み方の説明
- 第2回 EXCELの基本操作(計算と作図:圧力単位換算表、空気密度の変化グラフ)
- 第3回 EXCELの基本操作(空気中における物体の運動軌跡、計算結果のグラフ化)
- 第4回 発表資料の作成(物体の運動軌跡について、パワーポイントによる資料作成)
- 第5回 発表資料作成における注意事項説明(物理量と単位の表示について)
- 第6回 発表資料の作成(物体の運動軌跡について)
- 第7回 プレゼン(物体の運動軌跡とその考察)
- 第8回 発表資料の修正(物体の運動軌跡について)
- 第9回 総括(発表資料提出、感想文提出)
- 第10回 特別講義(企業におけるモノづくりの実際について学ぶ)
- 第11回～第15回 全学教養講座

■ 教養ゼミの成果等

学生達は設定された問題に対して、それを解くための基本的な数学的方法を学び、計算結果をプレゼン資料としてまとめるための知識や技術と共に、プレゼンをとおしてコミュニケーションの方法を、ある程度身につけることが出来た。それぞれの能力に応じて、自分自身で考えて結果を出すことが出来た。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

学生間に能力差があることを前提としてゼミを運営した。すなわち、画一的な到達目標を設定せず、個々の学生が「何がどこまで出来るようになったか」を重視した。各学生も自分自身の能力の向上を実感したのではないかと考えている。今後も、自律学習を基本方針としてゼミを運営する。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西 利次

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 第1回 基礎力養成ゼミの説明および自己紹介
- 第2回 大学での学習方法、レポート作成方法
- 第3回 将来の進路、就職
- 第4回 SPI の問題を解く(理科分野)
- 第5回 SPI の問題を解く(国語分野)
- 第6回 SPI の問題を解く(数学分野)
- 第7回 一般常識問題を解く(法律・経済)
- 第8回 一般常識問題を解く(歴史・地理)
- 第9回 一般常識問題を解く(数学)
- 第10回 一般常識問題を解く(理科)
- 第11回 教養講座①
- 第12回 教養講座②
- 第13回 教養講座③
- 第14回 教養講座④
- 第15回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第 1～3 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明を行った。第 4～10 回では、SPI、一般常識問題の演習を行った。初めは解答に時間を要したが、演習を繰り返すうちに解答時間が短くなり、正答率も高くなった。就職のためには学生時代に基礎的な学力や社会常識を身に付けなければならないと感じ、ゼミ生たちは真面目に問題に取り組んでいた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

特に問題点はないが、次年度は機械工学専門科目の基礎である物理の問題を中心として、より多くの問題を解かせようと考えている。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 1) 大学生生活の送り方 ※1～3回目テキスト:「大学 学びのことはじめ」
 - 2) 図書館オリエンテーション
 - 3) 大学での学び方、レポートの書き方
 - 4) データの取り方、まとめ方
 - 5) データをグラフ化する
 - 6) グループワークと発表の仕方
 - 7) データ分析の基礎①ーヒストグラム
 - 8) データ分析の基礎②ー相関と回帰
 - 9) 分析結果発表
 - 10) レポート講評
- 第11回～第15回 全学教養講座

■ 教養ゼミの成果等

最初の 3 回は、主にテキストと通じて、大学での学び方や大学生生活の送り方など、大学新入生として持つべき心構えや基本知識を学習した。また図書館オリエンテーションへの参加などを通じて、福山大学の各施設やサービスの利用方法を学んだ。

4 回目以降は、主にインターネットを通じて収集したデータを、統計解析手法を用いて分析し、その結果をレポート化してゼミ生に紹介して、互いに質疑を交わす学習を行った。データの収集方法と分析方法、レポート作成とプレゼンテーションの仕方、ワードやエクセルなどの基本的な OA ソフトの使い方など、大学生として基本的に要求される情報リテラシーを身に着けることを目標とした。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

インターネットを通じてデータ収取する方法は、学習に興味を持たせることに効果がある反面、学科の初年時教育としてふさわしい内容を盛り込みにくい一面があった。次年度は、機械工学関連の実験から得たデータを分析するなどのテーマでの学習を試みる。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

4人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
6. 微分の公式を覚えよう。
7. プレゼンテーションの基礎
8. 微分の問題を解き、解き方を説明する
9. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
10. 特別講義
11. 教養講座(1)
12. 教養講座(2)
13. 教養講座(3)
14. 教養講座(4)
15. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生活を始めるための基本的なことは十分説明できた。大学の施設案内では図書館も見学した。今年の配属生は4人で、1人は2年生であった。去年に教養ゼミを放棄した学生である。数学に関して、得意な学生も不得意の学生もいた。学生ごとに難易度を変えた問題を解き、説明する過程で、基礎力はついたと思う。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

コミュニケーションをとれるよう心がけたが、2年生は5月頃から来なくなり、7月に退学した。そのため全員のコミュニケーションはうまくできなかった。上級生がいた場合のお互いの会話などが今後の課題である。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーションと他己紹介
- 第2回 キャンパスライフとスタディスキルズ
- 第3回 探究テーマの決定
- 第4回 情報収集・分析
- 第5回 テーマのまとめ
- 第6回 プレゼンテーション計画と構成
- 第7回 プレゼンテーション準備
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 レポート作成
- 第10回 特別講義「企業における開発・設計」:ダイキョーニシカワ(株) 近藤弘信 講師

※上記のほか、教養講座(下記,年間5回)も評価対象に加えた。

- 第11回 教養講座(第1回,4月17日):金井誠太 講師
『SKYACTIVEと「マツダ モノ造り革新」』
- 第12回 教養講座(第2回,5月28日):柳田敏雄 講師
『ゆらぎと生命機能 ~2千万ワット使うスパコン,1ワットで働く脳~』
- 第13回 教養講座(第3回,10月10日):木曾 功 講師
『ユネスコとユネスコ世界遺産条約』
- 第14回 教養講座(第4回,11月10日):小玉一樹 講師
『メンタルヘルスの基礎知識 ~今、働く人たちに何が起こっているか~』
- 第15回 教養講座(第5回,1月23日):小早川毅彦 講師
『勝ち抜くためには、何が必要か ~野球を通して私が得たもの~』

■ 教養ゼミの成果等

- (1)統一テーマ「再生可能エネルギーについて」を簡単に説明し、メインのテーマの中で学生は探究するのに関心のある個々のテーマを設定した。情報収集・分析・整理の過程で、不明なところを点検し、背景、原理や仕組み、長所や短所などの特徴を明確にして、現在の問題点を抽出して考察を行った。個々のテーマに向き合うことで、これからの学修の意義を自覚することができた。
- (2)プレゼンテーションでは、難解な用語を分かりやすく丁寧に説明し、他の人に理解を促すなどの工夫がなされ、プレゼンテーションは良好であった。
- (3)統一テーマの丁寧な説明によって、学生に理解を促し、興味を喚起したことで、他の学生のテーマについても関心を示し、グループ・ディスカッションも良好であった。
- (4)特別講義では、企業人からモノづくりの実情と社会人としての心構えなどの説明があり、大学で学ぶべき意義を強く認識する機会となった。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

教養ゼミを本学の工学教育の特色を活かした学部共通的な内容に改編することを視野に入れ、工学部における教養ゼミの今後のあり方を検討する時期に来ているように思われる。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

4名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】図書館オリエンテーション
- 【第3回】課外活動のすすめ
- 【第4回】資格の種類と取得方法
- 【第5回】リサーチの方法、プレゼンテーションの方法
- 【第6回】プレゼンテーション用資料の作成（テーマ：学生がだまされる危険について）
- 【第7回】プレゼンテーション
- 【第8回】キャリアデザインについて
- 【第9回】プレゼンテーション用資料の作成（テーマ：スポーツと新素材）
- 【第10回】プレゼンテーション
- 【第11～15回】教養講座

■ 教養ゼミの成果等

第10回に教養ゼミを通じて得られたこと等を受講生に書いてもらった。

主な感想は以下の通りである。

- ・大学でのマナーやルールがよくわかった。
- ・人間として基礎をキチンとしなければならないということを確認できた。
- ・社会に出ていくための基礎知識が身についたと思う。
- ・図書館見学の後、ほとんど毎日通っている。
- ・挨拶の大切さ。（一番自分をわかってもらえる気がした。）
- ・大学生活だけでなく、生きていく上での大切なことを学べた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

対話方式で授業を進めることが多いが、学生の発言が少ないので、自由な発言ができるように配慮したいと思う。（雰囲気作りなど）。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

5名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) モノづくりに必要なこと
- 3) 紙トンボの製作(1) 検討・製作
- 4) 紙トンボの製作(2) 発表・レポート作成
- 5) ペーパーパラシュートの製作(1) 検討・製作
- 6) ペーパーパラシュートの製作(2) 発表・レポート作成
- 7) 紙動力自動車の製作(1) 検討・製作
- 8) 紙動力自動車の製作(2) 発表・レポート作成
- 9) プレゼンテーションとグループディスカッション
- 10) まとめ
- 11) 第1回教養講座
- 12) 第2回教養講座
- 13) 第3回教養講座
- 14) 第4回教養講座
- 15) 第5回教養講座

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについても説明を行った。教員側からの一方的な説明ではなく受講生からの質問等も多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。また、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。

これらのことにより受講生の大学での学習方法や取り組みについて理解が深まったものと思われる。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

各自の取り組む姿勢の差があり全体的な到達目標に差が生じてしまった。次年度は導入時に興味を抱かせる必要がある。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口 博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として15回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年30回実施している。加えて、教養講座も本科目の一環としてとらえている。実施回数ゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内 容
第1回	平成 26 年 4 月 9 日	【福山大学の理解・・・教養ゼミガイダンス】 カリキュラムの中での教養ゼミの目的について解説。教養ゼミで取り上げたいテーマについて話し合う。
第2回	平成 26 年 4 月 16 日	【みんなで元気に】 今週末土曜日に行う「スポーツ雪合戦」のルール解説、チーム編成、チームごとの作戦会議。
第3回	平成 26 年 4 月 17 日	【第1回教養講座】 マツダ副会長金井先生
第4回	平成 26 年 4 月 23 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 「目からウロコ」、「野球のデッドボール」などを例に、言い回し・熟語の由来から、教養とは何かについて話し合う。
第5回	平成 26 年 5 月 7 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1 知的ゲーム「ウマ・ヒツジ・サル・ライオン・ウシ」(発表) 話題2 知的ゲーム「イカにあってタコにない」フリートーキング
第6回	平成 26 年 5 月 14 日	【福山大学の理解・・・瀬戸内の里山からバイオテクノロジー】 学科のコンセプトと4年間の学びのアウトラインを説明。特に、「ブドウ栽培～ワイン製造」プロジェクトへの取り組みについての喚起。
第7回	平成 26 年 5 月 21 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1「四字熟語の文化、漢字を作ろう」(フリートーキング) 話題2「面白さを創り出すのは自分である」(読み物)を読んで討論
第8回	平成 26 年 5 月 28 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「地理・歴史、高校教育の困難」(読み物)を読んで討論 話題2 話題 1 をフォローし、「こんな科目があればいいのに」(フリートーキング)

第9回	平成 26 年 5 月 28 日	【第2回教養講座】 大阪大学柳田先生 「脳の揺らぎ」
第 10 回	平成 26 年 6 月 4 日	【保健管理センター】 保健管理センターの案内とカウンセリングの利用について 福山大学マップ（藤井カウンセラー）
第 11 回	平成 26 年 6 月 11 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 一般科目 E 群調査 話題1「英語の公用語化、是か非か」(読み物)を読んで討論 話題2「再び、教養ゼミで取り上げたいこと」(矢田部君議長で進行)
第 12 回	平成 26 年 6 月 13 日	【みんなで元気に】 実験・教務関係連絡事項 1号館前広場で缶けり
第 13 回	平成 26 年 6 月 25 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「国家とスポーツ」(読み物)を読んで討論 話題2「今の日本について」アンケートとフリートーキング
第 14 回	平成 26 年 7 月 2 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題「集団的自衛権」(読み物)を読んで討論
第 15 回	平成 26 年 7 月 9 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 履修関係連絡事項 話題1「パスク・ヤポニカ」(読み物)を読んで討論 話題2「セタ、彦星と織姫はその後どうなったか？」 話題3 知的ゲーム、ディベート
第 16 回	平成 26 年 7 月 16 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1「道徳教育の推進」(読み物)を読んで討論 話題2 知的ゲーム「サンドイッチゲーム」
第 17 回	平成 26 年 7 月 23 日	【学習意欲の喚起】 話題1「天才と凡才の差が・・・」「勉強カラオケ理論」(読み物)を読んで討論 話題2「今年前半の世間の出来事、後半に起こるであろうこと」(アンケートとフリートーキング) 前期試験・夏季休暇に関する留意点
第 18 回	平成 26 年 9 月 24 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「〇〇の秋」(順に発表) 話題2「世界の日本人ジョーク集」(読み物)を読んで民族性・国家・言語について考える
第 19 回	平成 26 年 10 月 1 日	【補習時間】 実験安全講習
第 20 回	平成 26 年 10 月 8 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「体育の日にちなんで東京オリンピックを考える」(フリートーキング) 話題2「ノーベル賞、青色 LED」 話題3「新幹線 50 周年、日本の技術力」
第 21 回	平成 26 年 10 月 10 日	【第 3 回教養講座】 木曾 巧 先生 「ユネスコ世界遺産条約」
第 22 回	平成 26 年 10 月 15 日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭会場設営。ポスター作り。
第 23 回	平成 26 年 10 月 29 日	【お互いを知ろう・・・ディスカッション】 話題1「新入社員が上司に、上司が新入社員に求めるもの」(フリートーキング) 話題2「若者の現実と未来」(読み物)を読んでディスカッション

第 24 回	平成 26 年 11 月 5 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「スポーツの秋」(順に発表) 話題2「危機に立つ日本」(読み物)を読んでディスカッション
第 25 回	平成 26 年 11 月 10 日	【第 4 回教養講座】 平成大教授 小玉先生 「メンタルヘルスの基礎地初期」
第 26 回	平成 26 年 11 月 12 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「最近の世の中の出来事」(順に発表) 話題2「定常型社会」(読み物)を読んでディスカッション
第 27 回	平成 26 年 11 月 19 日	【みんなで元気に】 体育館でソフトバレーボール大会
第 28 回	平成 26 年 12 月 3 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「今年の流行語」についてディスカッション 話題2「原発再稼働」(読み物)を読んでディスカッション
第 29 回	平成 26 年 12 月 10 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「今年の漢字」についてディスカッション 話題2「東京五輪ー文化技術発展の契機に」(読み物)を読んでディスカッション
第 30 回	平成 26 年 12 月 17 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題「今年の 10 大ニュース候補は」(アンケート・発表)
第 31 回	平成 27 年 1 月 7 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題1「去年の 10 大ニュースを振り返る」 話題2「日本の活路を切り開く年に」(読み物)を読んでディスカッション
第 32 回	平成 27 年 1 月 21 日	【福山大学の理解】 話題1 ITC 教室で「共通教育アンケート」の回答。 話題2 創作四字熟語
第 33 回	平成 27 年 1 月 22 日	【教養を広げる…ディスカッション】 話題「パリ雑誌社襲撃事件」「ISIによる日本人人質事件」～考える。
第 34 回	平成 27 年 1 月 23 日	【第 5 回教養講座】 野球解説者 小早川先生 「勝ち抜くためには何が必要か」
番外	平成 26 年 4 月 26 日	【みんなで元気に】 すべての学年・教員でソフトボール大会

■ 評価について

提出されたレポートを担当または教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(出席状況と学習姿勢)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が 80 点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1)一昨年の課題として、教養講座を教養ゼミの一環として実施するようになり、教養ゼミの中での位置付けをしっかりとさせることを念頭に、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げる時間を持た(上記の表には入れていない)ことは、さらに前進である。
- (2)福山大学教育システムを周知徹底して、教養ゼミを含めた本学での学び方を全学生に理解を促す時間がさらに必要。
- (3)毎年のごとく、各回のゼミのテーマにより、受講生の食いつきに差がある。学生が取りつきやすい話題にするのか、従来の教養的センスを身につける話題をうまく導入するのか、毎年難しいところである。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 井ノ内 直良

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:5 ゼミの学生:6~7名

(ただし、前期はクラス全体で実施。後期に少人数制のゼミ数5で実施。)

■ 前期実施内容

全体ガイダンス3回(大学ならびに学科の説明、履修科目の Web 登録など)、図書館(15号館および34号館)の見学と利用法の習得、管理栄養士国家試験の説明など、例年行っている教養ゼミの内容に加えて、26年度から、基礎学力向上プロジェクトを前期終了までクラス全体で実施した。基礎学力向上プロジェクトの内容は、国語(語彙力および漢字能力)、栄養学などに関する基礎力アップを目指した練習問題の実施と解説である。本学科は、1年次前期から管理栄養士の国家試験に出題される問題に直結する専門科目(栄養学、食品学、医学、生化学など)が開講されており、教科書(特に医学系科目)の語句や漢字が難しく、対応しきれていない学生が見受けられたことから、少人数教育は後期に回して、学科の専門科目に必要な基礎学力の向上を優先している。また上記以外にも、外部講師(食品総合研究所の研究者)によるセミナー「食品高圧加工の概要及びその利用状況」の聴講、学生間の親睦を深める球技大会も前期の教養ゼミの一環として取り入れた。

■ 前期教養ゼミの成果

学科独自の基礎学力向上プロジェクトにより、1年次生の基礎学力の向上につながったと考えられる。

■ 問題点, 改善点, 後期での対応策

前期は基礎学力向上プロジェクトに重点を置いたので、学生間のコミュニケーションや協調性を養うことに関して十分でなかったため、後期の前半は大学祭に関連した活動により学生間の交流をはかり、後半には6~7名の班編成による少人数教育を実施し、基礎学力の向上ならびに学生間のコミュニケーション能力や協調性を養う。

■ 後期実施内容

後期の授業開始と同時に、大学祭での学科紹介のための準備を役割別の班単位で数回実施し、大学祭終了後に医学・生化学・食品学分野および調理学・栄養学分野の話題をクラス全員に聞かせる機会を2回持った後、少人数班別ゼミナールを5回行った。班別ゼミナールは、それぞれの班に教員2名ずつが担当者となり、担当教員の実施計画にしたがって行われた。各ゼミ班ともに、1回目は自己紹介、マナー教育にはじまり、心理学の藤居先生による心理テストの演習、実験・実習、テーマ討論、25号館の美術品の鑑賞など様々な内容の班別教養ゼミが実施された。

■ 後期教養ゼミの成果等

少人数の班別ゼミナールでは、学生と教員、学生同士で十分コミュニケーションを取ることができた。また、挨拶、話し方などのマナーも身についた。大学祭の運営により、企画力、協調性、挨拶、先輩との接し方などが身についた。特に後期開始から行った大学祭の準備では、上級生との連絡も密にして、大学祭終了まで、良く話し合い、準備作業などを通して、上級生とのつながりができた。

■ 担当者氏名

(代表) 三輪 泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:12

ゼミの学生数:8-9 名

全学生数:104 名

■ 前期実施内容

- 1)全体ガイダンス:教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2)自己紹介(自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、)
- 3)図書館の利用法
- 4)個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5)大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6)大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7)大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8)大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9)定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1)個人面談(前期成績のチェックや学生生活など)
- 2)大学祭の計画-工程表の作成
- 3)大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成等
- 4)大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、海洋生物の採集、金魚の飼育、展示物の作成等
- 5)大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け等
- 6)大学祭- 来場者への対応
- 7)大学祭- あとかたづけ
- 8)個人面談-欠席調査など
- 9)大学祭の反省会
- 10)定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1)少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2)学生生活や教務(履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など)についてサポートすることができた。
- (3)プロダクトとして大学祭の展示企画(3つのテーマ、展示内容、必要物品等)についてまとめることができた。
テーマ:1)ルアー作り・2)クラゲの世界・3)金魚すくい(定番)。

- (4) 大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。
- (5) 大学祭の来場者(小学生や高齢者など)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、ほかの人により良く理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
- (6) 学生が大学祭を十分にエンジョイしてもらった。
- (7) 学生一人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
- (8) 平成 25 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1) 少人数体制(8-9 名)指導しているが、1グループあたり1人の教員が担当しているせいか、目の行き届かない学生も出てくる場合がある。
- (2) 教養ゼミが時間割の都合で 5 時限に開講しているが、1~4時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでてきて、集中力を維持するのが難しい場合があった。
- (3) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月~金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (4) 周りの学生とうまく打ち解けることができない学生への対応が難しい。
- (5) 学生数が非常に多いので全体で展示企画について仕事を進めていくのが難しいと感じた。今年度もテーマごとに積極的に取り組む学生をリーダー、副リーダー、書記として数名選抜し、その運営に指導能力を発揮してもらった。テーマによっては全体をまとめることができるリーダーとできないリーダーがおり、その学生の対応に一部苦慮した。しかし、以前に比べてしっかりとリーダーシップを発揮する学生の割合が多くなった。
- (6) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間、執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。
- (7) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて積極的に参加できなかった学生がいたので、取り組むことができる環境づくり(目標をしっかり理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていきたい。
- (8) 昨年と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
- (9) 大学祭で3年生による3つの専門コースの展示、学芸員実習による展示とジョイントした。1年生は3年生や学芸員実習による展示に興味を示し、先輩達の活動内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。
- (10) 学生が地域の活動(地域の祭りなど)に参加して、地域住民とのコミュニケーションをもつような企画を検討していきたい。

薬学部

■ 担当者氏名

(代表) 岡村 信幸

(担当) 岡村信幸、井上裕文、田淵紀彦、松岡浩史、上敷領淳、長崎信浩、渡邊正知(薬学入門担当)
藤岡晴人、井上敦子、五郎丸剛、大橋一慶(クラス担任)

■ ゼミ数, ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:井上裕文)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(3名)ならびにクラス担任(5~6名)がチューターとして指導を行った。さらにP3クラスにメンター(5年生)を配置した。

※日程・方略は別紙参照

2 教養講座(担当責任者:藤岡晴人)

教養講座(5回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生-教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

- ・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。
- ・平成26年度は教養講座を欠席し、教養講座レポート未提出のため、4名(休学3名含)の学生が不合格となった。昨年度に比べ不合格は減少しているため、新入生オリエンテーションでの徹底した周知の効果があったものと考えられる。今後も教養ゼミ(教養講座)について新入生オリエンテーションで徹底して周知する予定である。

業学入門前期(平成26年度)

4月					5月					6月					7月				
							3	4	5			3	4	5			3	4	5
					1	木				1	日				1	火			
					2	金				2	月				2	水			
3	木		入学式		3	土		憲法記念日		3	火				3	木			
4	金				4	日		みどりの日		4	水				4	金			
5	土				5	月		こどもの日		5	木				5	土			
6	日				6	火		振替休日		6	金				6	日			
7	月				7	水				7	土				7	月			
8	火				8	木				8	日				8	火			
9	水				9	金				9	月				9	水			
10	木				10	土		方略3 石原先生	※1, 2限目	10	火				10	木			
11	金				11	日				11	水				11	金			
12	土		方略1	※1, 2限目	12	月				12	木				12	土		方略7B	※1, 2限目
13	日				13	火				13	金				13	日			
14	月				14	水				14	土				14	月			
15	火				15	木		開学記念日		15	日				15	火			
16	水				16	金				16	月				16	水			
17	木				17	土		方略4 菅先生	※1, 2限目	17	火				17	木			
18	金				18	日				18	水				18	金			
19	土		方略2A	※1, 2限目	19	月		方略5 P1		19	木				19	土		方略7C 発表会	※1, 2限目
20	日				20	火		方略5 P2		20	金				20	日			
21	月				21	水		方略5 P3		21	土				21	月		海の日	
22	火				22	木				22	日				22	火			
23	水				23	金				23	月				23	水			
24	木				24	土		方略6	※1, 2限目	24	火				24	木			
25	金				25	日				25	水				25	金			
26	土		方略2B	※1, 2限目	26	月				26	木				26	土			
27	日				27	火				27	金				27	日			
28	月				28	水				28	土				28	月			
29	火		昭和の日		29	木				29	日				29	火			
30	水				30	金				30	月				30	水			
					31	土													

薬学入門前期方略(平成26年度)

方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考	
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月12日(土) 1-2時限	1-1	講義	1.薬学入門について(約15分) 2.SGDについて 3.KJ法について	34202	岡村・井上・田淵・上敷領・松岡 (担任)	40	資料配付・作業説明
			1-2	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を抽出(KJ法)		担任	10	資料配付:課題(1) 「今心にあること」をタックシールに書き出す
			1-3	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の島とタイトルを作成する(KJ法)	P1:研修室1 P2:研修室2	担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する
			1-4	SGD	今日からできること(今後の行動目標)	P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)	担任	30	資料配付:課題(2)
			1-5	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	
2	【薬とその適正使用】 1.「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2.種々の剤形とその使い方について討議し、概説できる。 3.一般用医薬品と医療用医薬品の違いを討議し、概説できる。	4月19日(土) 1-2時限	2A-1	講義	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について(KJ法)	34202	田淵	10	作業説明
			2A-2	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」について抽出(KJ法)	P1:研修室1	担任	15	意見をタックシールに書き出す
			2A-3	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」の島とタイトルを作成する(KJ法)	P2:研修室2 P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)	担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する
			2A-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙
			2A-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して調査
	【薬剤師の活動分野】 1.薬剤師の活動分野について概説できる。 2.自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月26日(土) 1-2時限	2B-1	講義	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について	34202	田淵	10	作業説明
			2B-2	SGD	「薬剤師の仕事の種類(卒後の進路と仕事内容)」について抽出(ブレインストーミング)	P1:研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			2B-3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成	P2:研修室2 P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)	担任	40	模造紙にマップを作成
			2B-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙
			2B-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室	担任	60	書籍を利用して調査
3	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月10日(土) 1-2時限	3	講義	1.基本的なマナー・コミュニケーション 2.薬剤師のやり甲斐	研修室	石原 (担任)	180	レポート提出
4	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	5月17日(土) 1-2時限	4	講義	1.身体と心との体感・気付きのワーク 2.グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室	菅 (担任)	180	
5	【薬剤師の活動分野】 1.病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2.薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3.医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1.見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月19日～ 5月21日 ※詳細は 日程表参照	5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事(仕事内容と係り合い)」について	34202	田淵	10	作業説明
			5-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事(仕事内容と係り合い)」について抽出(ブレインストーミング)	P1:研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			5-3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成	P2:研修室2 P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)	担任	40	模造紙にマップを作成
			5-4	発表	発表(各5分)・総合討議(各15分)		担任	50	発表:模造紙
			5-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室	担任	60	書籍を利用して調査
			5-6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付
6	【事前学習】 1.見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。 2.見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	5月24日(土) 1-2時限	自己学習		調査課題:見学施設への質問内容や専門用語について				
			6-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について	34202	田淵	10	作業説明
			6-2	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	P1:研修室1 P2:研修室2	担任	30	ホワイトボードにまとめる
			6-3	発表	発表(3分)・討議(5分)	P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)		60	発表:ホワイトボード
			6-4	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)	34202	岡村	40	
			6-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	P1:研修室1 P2:研修室2	担任	20	
		6-6	SGD	質問票の作成	P3:プレナリーセッション室1 (SGD室)	20		質問票の雛形配付 USBメモリー持参	
		5月26日～ 5月31日	質問票提出	質問票・自己紹介票を担任に提出(5/31まで)		※担任は質問票・自己紹介票を点検後6/3までに施設へFAX			
			事前連絡	見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整					
			自己学習	質問内容や専門用語について充分学習しておく					
7	【早期体験学習】 1.病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2.保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月9日～ 7月9日 ※詳細は 日程表参照	7A	見学	体験学習	病院 薬局	指導 薬剤師	60～ 240	
			自己学習		討議・まとめ・発表準備				
		7月12日(土) 1-2時限	7B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	※1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収
		7月19日(土) 1-2時限	7C	発表	発表・討議(各5分)	※1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)

※1: P1クラス:34216研修室1 P2クラス:34217研修室2 P3クラス:34203プレナリーセッション室1